

令和6年度 学校評価 「子どもが育つ学校～こころ・からだ・きずな～」

学校教育目標：

児童生徒一人一人の可能性を可能な限り伸ばし、社会の一員として自立し自己実現と共生に向けて主体的な取組を行える児童生徒の育成を目指す

令和6年度 重点目標

- (1) 「なぜ」に基づく対話を通した安全・安心な学校づくり
- (2) いのちと人権を大切にする信頼される学校づくり
- (3) 情報発信・情報共有による開かれた学校づくり
- (4) 個々のニーズに応じた教育及び社会的自立に向けたキャリア教育の充実
- (5) 校務や教育におけるICT機器の利活用
- (6) 同僚性の醸成及びチームの連携体制の構築

	学部・分掌目標	具体的な取り組み
小学部 重点目標 (1)(2)(4)	<p>①キャリア教育における挨拶や人との関わりを重視し、実態に合った挨拶や返事、友達や教師への誘い方や要求の方法を身に付けられるような指導に取り組む。</p> <p>②キャリア教育における役割の理解と分担を重視し、決められた仕事(役割活動)を最後までやり切ったり、自ら分かって取り組んだりできるように指導支援をする。</p>	<p>①挨拶は朝・終わりの会で挨拶や呼名に対し返事をする場面を設定し、継続的に取り組む。挨拶や返事、声のかけ方や肩を叩くなど、児童の実態に応じた方法を提示するために教師間や児童と相談しながら指導支援する。</p> <p>②児童の実態に応じた司会や当番、係活動などの役割活動を、教師間や児童と相談して設定し、教師と一緒にしたり、繰り返し取り組んだりして活動の理解と定着ができるように指導支援する。</p>
中学部 重点目標 (1)(4)(6)	<p>①キャリア発達における挨拶や他者との関係づくりを重視し、場に応じた挨拶や適切な言葉遣いを習得し、「他者との円滑な関係を築くことがなぜ大切なのか」を理解できるように指導支援を行う。</p> <p>②キャリア発達における役割の理解と作業内容を重視し、授業や日常生活で自分の役割と作業内容を理解し、最後まで作業をやり遂げる態度を身に付けるよう指導支援を行う。</p>	<p>①授業や日常生活において、ICT機器やイラストカード等、個々の実態や発達に応じた支援を教員同士や生徒と相談し、生徒に状況や人に応じた挨拶の仕方を伝える。主体的に他者とのやり取りができるように支援する。</p> <p>②授業や日常生活において、教員同士や生徒と相談して実態に応じた係活動を設定し、一人ひとりがわかつて動けるような支援方法を工夫する。経験できたことを称賛し、自ら進んで行う主体性を育むように指導する。</p>
高等部 重点目標 (1)(2)(4)	<p>①卒業後の社会生活に主体的に参加するために、自分の考えや気持ちを相手に伝えることができるよう指導支援を行う。</p> <p>②社会的自立を目指し、責任をもって、主体的に自分の役割が果たせるよう指導支援を行う。</p>	<p>①SST、自立活動、HRなどの時間を使って、自分の考えや気持ちを適切に表現して伝える取り組みを、生徒との対話を大切にしながら行う。言葉、身振り、カードなど、個に応じた表現方法を工夫し、学校生活の様々な場面で伝えられるよう、教師間で協同して指導支援を行う。</p> <p>②クラスの係活動、委員会活動などにおいて、各役割を説明し、繰り返し取り組むことで、自ら理解して取り組めるように支援する。また、職業の授業、校内実習、現場実習などにおいて、任された仕事に主体的に取り組めるように、卒業後の生活について説明をしたり、自分の姿を想像したりする場面などを設け、見通しを持たせる。</p>
分教室 重点目標 (1)(3)(4)	<p>①卒業後に自分らしい自立した生活が送れるように家庭と連携し、進路実現に向けて個々の生徒と関わりを大切にした支援指導を行う。</p> <p>②交流及び共同学習の充実・発展を目指すことにより、積極的な社会参加へつなげる。</p>	<p>①家庭との連携を図るため、日々の連絡帳でのやり取りや学年通信・ブログ(HP)での情報共有を密に図る。生徒個々の進路選択について生徒と対話し、教師間で情報共有しながら関心を持ち、日々の教育活動の中で意識し生徒と関わりを持つ。</p> <p>②教師自身の交流及び共同学習の意義の理解を深める。アンケート等の結果を基に生徒にとって必要な活動を精査し、積極的に取り組む機会を設ける。</p>
訪問教育 重点目標 (1)～(6)	<p>①生活リズムを整え、生きる意欲を高める力を育むために、家庭、医療、福祉との連携を図る。</p> <p>②定期的なスクーリングの実施や該当学年と同課題の設定、タブレット映像での学習交流、校外活動への参加を通じ同年代の友達と触れ合う機会を充実させる。</p>	<p>①リハビリを見学して理学療法士からの指導助言を教育活動に活かす。保護者との対話を大切に、安全で安心な教育活動を行う。</p> <p>②学部学年の教師と積極的に連携を図り、学習内容の設定をしたり、学校の様子を映像で見たりしながら、同年代の友達や他者と触れ合うことで豊かに生活できるようにする。</p>

総務部 重点目標 (3)	①ホームページなど様々な方法により日々の教育活動を効果的に発信する。	①学校行事や日常の授業等の様子が伝わる写真を選定してブログを掲載する。
教務部 重点目標 (4)	①教育課程(カリキュラムなど)の見直しと改善を行う。 ②授業内容の精選(実施する単元の整理)と3観点を踏まえた評価規準の作成を行う(継続)。	①各種教育課程委員会において、現在の教育課程(カリキュラムなど)の問題点や課題点を整理する。また、問題点や課題点について協議を行い、次年度以降の教育課程(カリキュラムなど)につながるように改善する。 ②各学部で各教科・領域の指導内容(単元)を再確認する。児童生徒の実態に合わせて内容を見直す。さらにそれぞれの単元について、3観点を踏まえた評価規準を作成する。
進路指導部 重点目標 (3)(4)	①卒業後の進路を見据えた、事業所情報や進路選択に役立つ情報を発信していく。 ②関係機関と連携し、進路学習に関する学びを充実させる。	①「進路通信」を活用し、進路に関する情報を発信したり、保護者向けの「事業所見学会」等を開催し、関心を喚起する機会とする。 ②関係機関の方を招聘したり、企業や事業所からの作業提供を受けたりしながら、進路学習に関する学びの機会を提供する。
生徒指導部 重点目標 (1)(2)	①安全・安心な学校づくりに向けて、学校環境の整備に努めるとともに、職員の資質や能力の向上を図る。 ②児童生徒のいのちと人権を大切にするとともに、児童生徒が楽しく安全に学校生活が送れるような指導、支援が実践できる。	①学校防災危機管理マニュアルに沿って各種避難訓練や対応訓練の実施する。校内設備安全点検は全職員で毎月実施する。 ②職員研修にて、学校いじめ防止基本方針の周知と児童生徒のいじめを含めた問題行動への対応と連携を確認する。
保健部 重点目標 (2)(3)	①児童生徒に自らの健康を維持・改善する能力を身に付けられるような保健学習を行う。 ②安全・安心な学校給食の実施に努め、旬の食材を使用するなど、献立内容の充実を図り、学校給食を「生きた教材」として活用した指導を行う。	①月間保健目標及び給食目標の学習を通じて、実際の生活で役立てることができる心身の健康教育を行う。 ②給食だよりを通じて、食についての情報発信をする。また、献立表の一口メモを活用し、毎日の給食指導につなげる。
自活・研究部 重点目標 (4)(5)	①校内研修会や学年の研究日、授業見学等を通して、PDCAサイクルを考えた授業作りを共通認識し、「学びあい、ともに伸びる授業づくり」を実践・情報共有を行う。 ②自立活動研究日の研修内容を情報共有し、日々の指導に活かす。	①児童生徒の「実態」「つけたい力」をふまえて児童生徒に関わる教師が話し合い、授業前後の評価を行うことで一人ひとりに適した支援方法・手立てを模索する。また、「ほめる」ポイントや指導が生活の中でどのように活きるかも確認し、児童生徒の意欲を引き立てる雰囲気をつくる。 ②自活研究日を設定し、各学部の状況に応じて研修を行う。実践報告で情報共有する。
支援部 重点目標 (4)(6)	①全児童生徒の情報を把握し、個々の実態に応じてチームによる支援体制づくりを行う。 ②家庭・福祉・学校の連携を推進し、児童生徒へのより良い支援を行う。	①担任・学年・学部間でも情報を共有できるように報告・相談用紙を活用する。日頃の様子や情報を必要に応じて校内の関係部署と共有し、今後の対応について検討する。 ②三者間の連携について職員会議等で周知する。保護者にはプリント配布及び懇談会等で説明を行う。連絡帳の共有や個別の教育支援計画作成において関係機関と連携を希望するかの確認を行う。事業所にはプリント配布やホームページ、事業所連絡協議会等で周知する。日々の情報共有や三者間の連携会議等には適宜対応する。
校務運営 重点目標 (1)～(6)	①学校教育目標実現に向けて円滑な学校運営を行うために、各部の方針や業務内容を知り、各自の教育活動に反映させることができる。 ②関係者間で対話を重ね、大人・子どもが共に安心できる安全な教育環境を目指す。	①職員会議や職員朝礼を通じ、現在置かれた学校の状況を全教員で情報共有する。一人一人の教員がなすべきことや学校に必要なことを考える機会を設ける。 ②縦軸(時間軸)と横軸(連携軸)の両方を意識し、関係者間で報告・連絡・相談を行う。